

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

「若者ことば」

3 学期はあわただしく日々が過ぎ去っていきます。新しい年 2017 年の幕開けから早いもので 2 月に入りました。今日は「節分」で、明日は「立春」です。暦の上では、春が始まる日ですが、まだまだ厳しい寒さが続きます。本校でも風邪やインフルエンザで欠席する生徒が増えて来ています。**十分な睡眠、手洗い、うがい**など自分の体調管理をしっかりと行ってください。特に、6 年生は国公立大学の出願が終わりました。私立大学一般入試も始まっています。試験当日、十分に力が発揮できるよう予防策はしっかり講じておいてください。

さて、話は変わりますが、先日朝日新聞に「探究 若者ことば」という記事がありました。朝日新聞とともに「語彙(ごい)・読解力検定」を主催しているベネッセコーポレーションが昨年 7 月、高校生以上の 3130 人を対象に初めて実施した「現代人の語彙に関する調査」の内容が掲載されていました。調査のまとめは 11 月に発表され、世代による語彙の違いも明らかになりました。高校生が知っていて親世代が知らない世代間ギャップの大きい言葉は略語が多い結果です。1 位は「**ディスる**」です。英語で尊敬しない、無礼などの意味の「disrespect」から生まれたそうです。2 位以下は、「**イミフ**」(意味不明)、「**りよ**」(了解)、「**きよどる**」(挙動不審な動きをとる)と続きます。一方、親世代の方が知っている割合の高い言葉は、「阿漕(あこぎ)」「イデオロギー」「忌憚(きたん)」「見紛う(みまがう)」などで、難しい熟語が多かったそうです。また、**本や新聞をよく読む人ほど語彙力が高い**という結果が出ています。

今週に入り、読売新聞がシリーズで「読解力が危ない」という教育に関するコラムを毎日掲載しています。経済協力開発機構(OECD)が昨年 12 月に公表した国際学力調査の結果では、15 歳の読解力が 4 位から 8 位に下がりました。文章や資料を読み解く力がないと、深く考え、自分の考えを表現することは難しくなります。**最近の SNS の普及に伴う短文のコミュニケーションが若者の間で急速に広がり、長文を読んだり、書いたりする機会が減っていることが原因の一つである**と思われまます。

読解力や語彙力を高めるには、もちろんスマホの利用時間を減らす、読書量を増やすなどの生活習慣を改善していくことが望まれますが、「Face to Face」でしっかりコミュニケーションをとることも大切だと思います。普段の生活で「正しい言葉づかい」が出来ているか振り返ってみてください。状況に応じた「正しい言葉づかい」をしていると、自分自身を高め、周りに人が集まってきます。しかし、TPOに応じた言葉がつかえず、人を中傷するような言葉をつかうと人は離れ、その言葉が身についてしまいます。

言葉は心を動かす力があります。誤解されるのも親しくなるのも言葉を通してです。

まず「**正しい言葉づかい**」が出来よう**心掛けて欲しい**と思います。